



FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE SKI
INTERNATIONAL SKI FEDERATION
INTERNATIONALER SKI VERBAND



CH-3653 Oberhofen (Switzerland), Tel. +41 (33) 244 61 61, Fax +41 (33) 244 61 71;

FIS-Website: www.fis-ski.com

アルペン国際競技規則決定事項及び指導事項2009/2010北半球版

- 加盟国スキー連盟*
- FISカレンダーに掲載されている全アルペン競技会の主催者
- 技術代表の任務のために
- * チームキャプテン及びコーチへの情報提供の為に各加盟国スキー連盟に送付。
増版転載は加盟国スキー連盟の義務

ICR2008 の修正

608.16.4.3 コースの特徴及び推奨

- ・ 方向転換数は、標高差の**20%-10~12%**
- ・ 3~5つの異なったセクションの設置が推奨される。
- ・ ジャイアントスラロームスキーの推奨。
- ・ コースは、旗門の様々なセクション間のスムーズな以降を可能にするだけでなく、絶え間なく変わるリズムと半径に反応し適応する選手の能力を試すべきである。
- ・ 地形を作ることは、任意であるが、コースがスムーズに流れることを可能にしなくてはならない。
- ・ 最低1つのジャンプを含む。
- ・ 突然のブレーキ及び減速の原因となる旗門は避ける。
- ・ 最初と最後の旗門は、選手を無理なく導くべきである。
- ・ コースセットのため、前走者またはコーステスターを用意すべきである。

※方向転換数算出比率の修正。

801.2.4 方向転換数

オリンピック冬季競技大会、FIS 世界選手権大会、ワールドカップ:

- 標高差の 30% - 35% **+/- 3 方向転換数**

FIS、コンチネンタルカップ、エントリーリーグ、チルドレン 1、2

- 標高差の 30% - 35% +/- 3 方向転換数

※OWG, WSC, WCにおける方向転換数調整値の加筆。

807 クラッシュヘルメット

すべての選手、前走者は競技装備詳述を満たすため、クラッシュヘルメットの着用を義務付けられている。このルールは公式トレーニングにおいても競技会と同様に適用される。

FIS Snow sports で着用されるヘルメットは特定のイベント用にデザイン、製造されているものでなければならない。そして、CEマークが付いて、CEE 1077, US2040, ASTM F2040, SNELL S98 又はRS98 等、適切な基準を満たしているものでなければならない。

耳の部分に柔らかい保護材の使用は回転 (SL) 競技のみで使用できる。

※競技用品委員会によりの文字修正 (ミスプリント) 日本語訳では調整済み。

競技用品規則の修正**9.2 規格**

バックプロテクターは、選手の脊柱の身体構造上のカーブになじみ、また身体にぴったりと重なるものでなければならない。バックプロテクターの上端は、脊柱の範囲内に位置していなければならない。かつ第7 頸椎 (C7) より上にあってはならない。バックプロテクターの取り付けに使用できるのは、腹部ベルトのみとする。バックプロテクターを固定するのは腹部にかかるベルトのみであるべきである。中心部の厚さは45mm 以下でなければならない。またバックプロテクターの端の部分では厚さは減少する。空気力学的特性を改善するためのデザインは、全て禁止する。バックプロテクターは、競技スーツの下にしか着用できない。

※現在、購入でき得る製品に対応する表現に修正。

修正事項 (Precision) は、次のFIS理事会で承認された。

レヴィ	(FIN)	2008年11月
ヴァンクーヴァー	(CAN)	2009年06月
チューリッヒ	(SUI)	2009年11月

1) ICR2008**タイミングルールの修正事項****611.3.2.1 手動計時によるタイムの利用**

手動計時によるタイムは、補正計算の後、公式リザルトに使用することができる。

補正計算：

タイムが計測できなかった選手の前5 名及び後5 名の手動計時と電気計時との差異を計算する。必要であれば直近の10 名で計算する。10 名の差異の合計を10 で割り、**そして切捨て切り上げた**その値をタイムが計測できなかった選手の手動計時タイムに適用する補正值とする。

スーパーコンビにおけるドローの方法

621.3.3 回転ランを滑降、またはスーパーGの前に行った場合、DNS (欠場)、DNF (途中棄権)、またはDSQ (失格) した競技者は、その後に行う滑降、またはスーパーGにも回転ランにおいて完走した最終選手の後に与えられたピブの順に出走する。但し、オリンピック冬季大会、世界スキー選手権大会、ワールドカップ、そして、ヨーロッパカップの各競技はこの限りではない。

※このルールは新設されたルールです。スーパーコンビのポイントを所有しない選手はすべてノーポイント選手として『シングルドロー』を適用します。

その他の修正**614.1.2.2 旗門のマーキング**

旗門ポールの位置を、全競技中見えるように残る、わかりやすい染料でマーク**すべきである**。ポールが大きな木製またはプラスチック製のベース使用して固定されている場合 (バケット) には、染料は必要ない。

614.1.2.3 旗門のナンバリング

旗門にはコースの一番上から一番下まで順に番号を付け**なければならない**。その番号は外側のポールに付けなければならない。外側のポールがない箇所では、ターニングポールにつけられる。スタート及びフィニッシュはこの数には入れない。

614.1.2.4 コースと斜面（地形）のマーキング

滑降及びスーパー-G では、コース上に次の様にマーキングすることができる：

- ~~旗門の前後、滑走ラインの内側と外側に小枝を立てる。~~
- 松葉やそれに近い物をコース上にまく。
- 旗門間を垂直に、またコース上を水平に染料を使用して、特に斜面変化やジャンプ等に対応する。

615.3 フィニッシュラインの通過とタイムの記録

フィニッシュラインは、次のように横切らなければならない：

- 両方のスキーで。または、
- 片方のスキーで。または、
- ~~フィニッシュエリア直前で~~最終旗門とフィニッシュラインの間で転倒した場合、両足。この場合、選手の身体または用具のどこかの部分が、計時システムをストップした時にタイムが計測される。

661.4.1 選手の両スキーの先端と両足が旗門線を横切ったとき、旗門を正確に通過したことになる。例えば、スラロームポールをまたぐといった不通過となる行為をせずに、選手の片方のスキーが外れてしまった場合は、もう片方のスキーの先端と両足が旗門線を通過しなければならない。~~外側のポールがない場合、両足と両スキーの先端が、スラロームの自然なコース取りと同じ側でターニングポールを通過しなくてはいけない。~~このルールは、選手が旗門まで登って戻らなくてはならない場合にも有効である。~~登り戻る場合は、ターニングポールの位置にてファールラインに対し、水平なレベルまで登らなければならない。~~

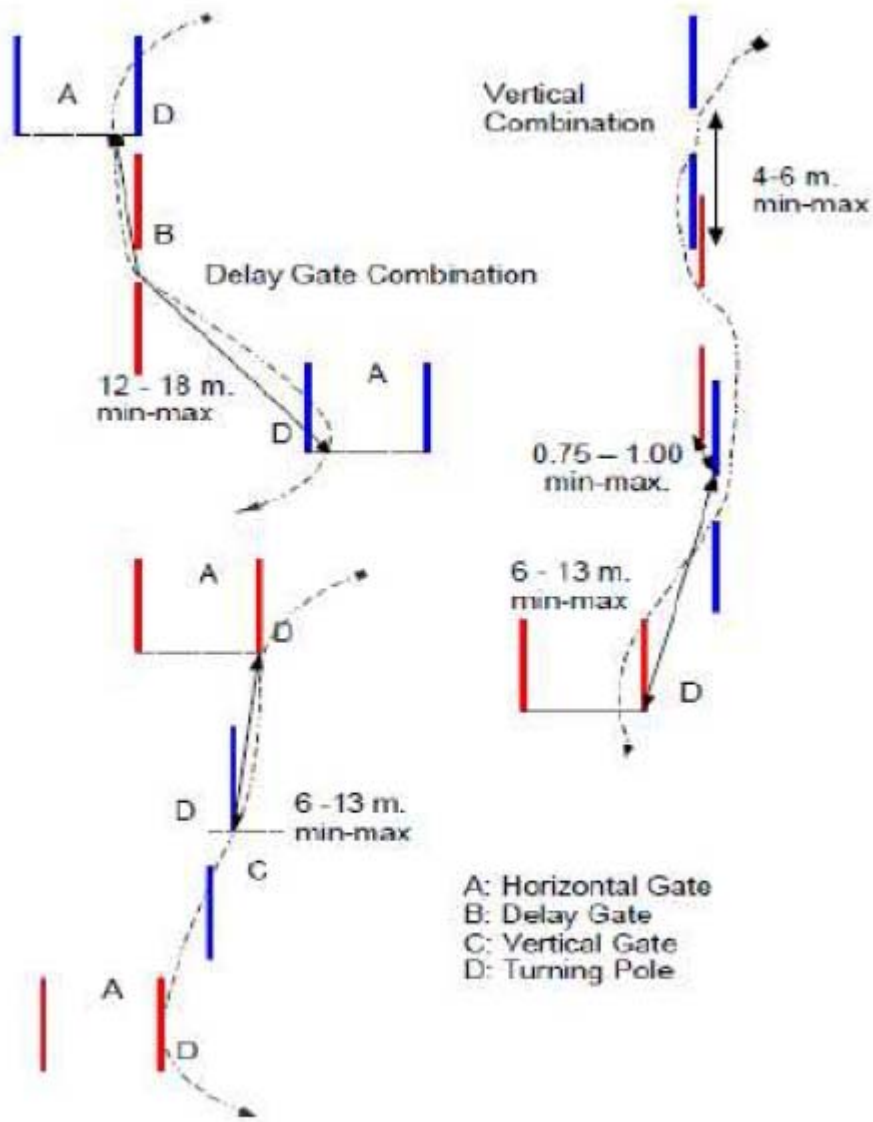
661.4.1.2 回転の旗門線はターニングポールと外側のポール間の想像上の最短線である。~~また、外側のポールがない場合、回転の旗門線は、不通過したターニングポールからすぐ上のターニングポールまでの想像上の最短先である。（図を参照）~~

※修正事項2008-09北半球版の再修正

801.2.1 回転の旗門は、2本のスラロームポール（第680条）から成る。~~もしくは、外側のポールがない場合、旗門はターニングポールから成る。~~

※修正事項2008-09北半球版の再修正

801.2.3 一旗門の幅は、最少 4m、最大 6mなければならない。
連続する旗門のターニングポール間の距離は 6m 以上 13m 以下でなければならない。（すべてのカテゴリーに有効）例外：チルドレン競技では 12m を最大距離とする。推奨：10m
コンビネーション（ヘアピン、またはヴァーティカル、ディレイドゲートなど）組み合わせ内における2つの旗門の距離は、最少 0.75m そして最大 1m でなければならない。ヘアピン、またはヴァーティカルコンビネーションは一線上にセットしなければならない。ディレイドゲートにおけるターニングポール間距離は最少 12m、最大 18mとする。



803.2 旗門コンビネーションの数 (Number of Gate Combinations)
 回転には、水平 (オープン) と垂直 (クローズ) な旗門 (ゲート) を含み、更に連続する3~4つの旗門構成によるヴァーティカルコンビネーションを最少1か所、そして、最少3か所のヘアピンコンビネーションを設置しなければならない。最少1つ最大3つのディレイドゲートコンビネーションを設置しなければならない。ディレイドターンのターニングポールの間は最短 12m、最大 18mなくてはならない。

803.3 旗門及び旗門コンビネーション (Gates and Combinations of Gates)
 最も重要な旗門と旗門コンビネーションの種類は、水平 (オープン) ゲート、ヴァーティカル (クローズド) ゲート、ヴァーティカルコンビネーション、ヘアピン、そして、ディレイゲートコンビネーションである。

803.5 回転コースの点検 (Checking of the Slalom Course)

コースセッターがセットを完了したら、ジュリーは次の事項に特に注意を払い、レースができる状態にコースが整備されているかを点検しなければならない：

- スラロームポールがしっかりと固定されている（ねじ込まれている）こと。
- 旗門の色の順番が正しいこと。
- **もし、必要であれば、**ポールの位置に印がつけられていること。
- 番号がアウトポールに順番通りに付けられていること。
- ポールが雪上から十分に出ていること。
- 選手が間違えないよう、2つの回転コースが十分離れていること。
- 選手が間違えないよう、予備ポールが正しく配置されていること。
- スタートとフィニッシュは、第613条及び第615条に従っていること。

新ルール804 シングルポールスラローム競技

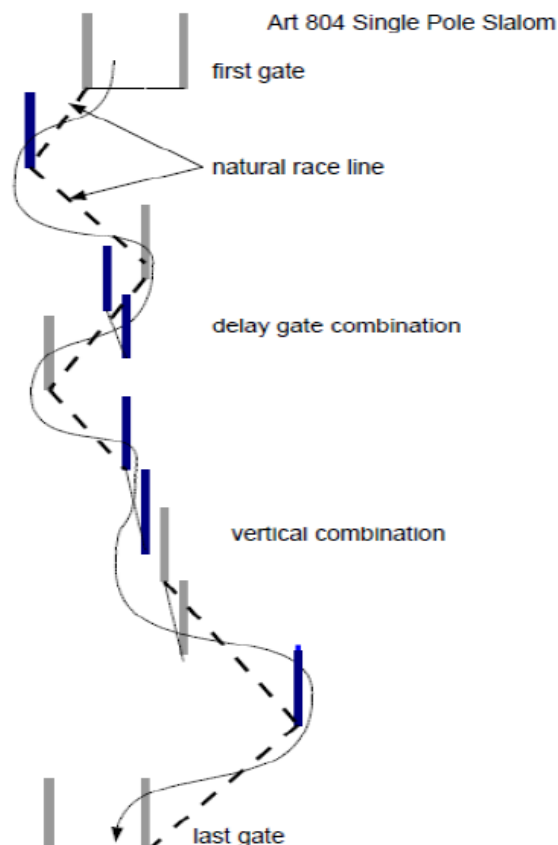
ICRに記載されているすべてのルールが適用される。但し、以下は例外とする：

804.1 シングルポールスラローム競技は、国際FISレベルの競技にのみ許可される。

(参照条項：201.3.4 201.3.5 201.3.6)

804.2 シングルポールスラロームはアウトサイドポールを持たない。但し、第一旗門及び、最終旗門、ディレイゲート、そしてコンビネーション（ヘアピン及びヴァーティカル）は例外である。

804.3 アウトサイドポールが存在しない場合、選手の両足とスキーの両先端が自然な競技ラインにおけるターニングポールサイドを通過する。自然な競技ラインとは、ターニングポールからターニングポールを結ぶラインを言い、競技者はこのラインを横切らなければならない。もし、競技者が競技ラインを正確に通過しなかった場合、彼は登り返り、通過しなかったターニングポールを回りラインを通過することができる。アウトサイドポールが存在する旗門（第一及び最終旗門、ディレイゲート、そして、コンビネーション（ヘアピン、パーティカル））には、ICR 661.4.1条が適用される。



コースインスペクション

601.4.6.1 テクニカルな見地から：

- 準備作業に関わる技術的及び天候を考慮に入れた、トレーニング用のレースコースのオープン及びクローズ
- 選手のコースインスペクション方法の決定
- レース前のジュリーコースインスペクション

滑降の場合：

- 異常な天候の場合の選手インスペクションの追加手配

608.12.5 コンビネーションインスペクション

ジュリーが決めた時間制限がある通常の選手インスペクションが提案する。このコンセプトは、通常のインスペクション時間から、反応と適応性をテストすることである。

614.3 インスペクション

614.3.1 ジュリーインスペクション

レース日は、ジュリーは、コースをインスペクションし、その日のプログラムを確認しなくてはならない。チームキャプテンは、ジュリーに同行することができる。

614.3.2 選手インスペクション

選手のインスペクションは、ジュリーのインスペクションの後に、ジュリーがコースをあけた後に行われ、通常、コースの上から下へインスペクションされる。コースは選手のインスペクションがスタートした時からレースコンディションでなくてはならず、選手はコース上の作業員又は同様な者にインスペクションの中に邪魔されてはいけない。選手は、低スピードでコースの端をスキーで滑るか、横滑りで旗門を通過して、コースの最終セッティングを確認する権限がある（インスペクション）。旗門を通過して滑るまたは、コース上で旗門で必要とされるターンと平行した形でターンの練習をすることは認められない。選手はスタート番号を携行しなくてはならない。フェンスで囲われた、ロープを張られた、または閉鎖されたセクションのコースまたは旗門は、尊重されなくてはならない。インスペクション終了時までには、選手はレースコースの外にいてはいけない。レーサーがスキーを履かずに徒歩でコースに入ることは認められない。

614.3.3 ジュリー決定

選手インスペクションの時間とその長さは、ジュリーによって決められ、チームキャプテンミーティングで予定に入れられる。もし必要なら（例：特別な天候のため）、ジュリーは選手インスペクションに関して特別な方法を定めることができる。

628.4 旗門を通過して滑る、またはコース上の旗門通過に必要なターンと平行した形でターンの練習をする。選手インスペクション規則違反になる。（614.3条）

703.2.2 公式トレーニング初日のトレーニング開始前に、ジュリーは、もしテクニカルアドバイザーがいれば一緒に、そして基本的にはチームキャプテンやコーチの立ち会いの下にインスペクションを実施しなくてはならない。

703.2.3 第1回公式トレーニングの開始前に、選手は**ビブ**を携行して、完全なコースインスペクションを行う。インスペクション時間はジュリーが決定する。

804 ~~コースインスペクション~~
~~614.3、804.1条を参照~~

904 ~~コースインスペクション~~
~~614.3条を参照~~

1004 ~~コースインスペクション~~
~~614.3条を参照~~

スーパーG のコースセット

603.7.2 コースセッターは、存在する安全対策に留意し、考えられる安全対策とコース整備状況を考慮し、レースコースのセッティングをしなければならない。コースセッターはスピードコントロールについても考慮しなければならない。

1001.3.4 スーパーG は次の通りセットしなければならない：
FISレベルまでは、最少方向転換数を標高差の7%とする。

オリンピック冬季大会、世界スキー選手権、ワールドカップ、世界ジュニア選手権、そして、コンチネンタルカップでは、最少方向転換数率を6%とする。最大旗門数（それぞれに方向転換を有する）＝標高差の10%男子競技では、もし、標高差が400～500m の場合の最少方向転換旗門数は32 旗門、もし、標高差が500～650m の場合の最少方向転換旗門数は35 旗門とする。女子競技の場合の最低旗門数は、30 旗門とする。最低旗門数（男子35、女子30）にカウントされるのは、方向転換を必要とする旗門だけである。——男女同一コースで開催される場合（同一スタート、同一フィニッシュ）は、男子のルールに準拠する。（標高差が500m 以下の場合、最少方向転換数は32 旗門、標高差が500m 以上の場合、最少方向転換数を35 旗門とする）

連続する2 旗門のターニングポール間の距離は、25m以上でなければならない（例外：第1003.1.1 条）。

チルドレン競技では：標高差の最少方向転換数率 8%、最大10%

エントリーリーグ（ENL）男子：標高差の最少方向転換数率：40 7%

K1カテゴリーのスーパーGにおける使用スキー

1003.1.5 チルドレン1（K1）のコースセット

K1 及びK2 にはその回転弧の大きさなど選手の年齢に適した異なるコースを適用しなければならない。K1 においては、適応したGSのスキーを使用する。

前走者

605 前走者

605.1 主催者には、選手と同様に国際競技規則（ICR）の全規則を満たす最低 3名のFIS選手登録宣誓書に署名した適切な前走者を用意する義務がある。前走者は「大会組織委員会」のメンバーである。滑降の場合、前走者はすべてのトレーニングランに参加すべきである。

特殊な状況においては、ジュリーは前走者数を増やすことができる。また、ジュリーは、ラン毎に異なる前走者を指名することもできる。

605.2 前走者は、前走者用のスタートナンバー（ビブ）を着用しなければならない。

605.3 指名された前走者には、コースを選手と同様に滑る技術を有することが望ましいことのできる程度のスキー技術をなければならない。

コース公認

650.3 受取人

申請の際には以下の書類をPDF変換し、マルチページ（必要なすべてのファイルを一つに纏める：注意：容量は8mb以内）化して4部ずつ作成し、インスペクター及び下記へ1部ずつ送付または渡さなければならない：

650.4.1 次の事項を含むコースの説明：

-
- 平均斜度、最大斜度、最少斜度（新度法または%表示）
- 負傷選手の緊急避難対策コース外への輸送手段
- 最寄りの病院への搬送距離：キロメートル表示
-

650.4.4 ~~コース積雪量の統計記録（冬季オリンピック及びFIS世界選手権では過去10年間、その他のレースでは過去5年間の記録）。~~

650.4.4.5 ~~コースがマークされた大きな全体写真。事業綱領からの模写ではなく、本物の写真でなければならない。写真のサイズは、18x24cm以上とする。写真はできれば、反対側の斜面から撮影するべきである。これが不可能な場合は、斜めからの空撮写真でも受け付けるが同様の効果をもたらす。~~

650.4.5.6 ~~コース全体のスケッチ：縮尺5000/1、リフトタワー、樹木群、人工降雪設備、雪のフエンス、急斜面部分、カーブ、コースの交差点等と、標高、断面図、スキー場名称等に関する情報などのデータとすべての詳細を記載する。このスケッチの目的は主として、コースの実状、計画されているコースの改善、セーフティネットの位置等に関して要約した情報を、インスペクターに提供することである。~~

650.6.1 申請者

必要書類がPDF形式にて4部ずつの準備ができ次第、申請クラブは所属国連盟を通じてアルペンコース小委員会委員長へ公認申請を送付するか、所属国連盟の同意を得た上で、現地視察中の前にインスペクターに渡す。この場合、インスペクターがコピーを所定の配布先に配布する。

同時に申請者は150 スイスフラン相当額をFIS事務局に支払わなければならない。この金額で管理費用を負担する。インスペクターの旅費及び滞在費は、申請者（クラブ）が直接インスペクターに支払わなければならない。インスペクターの自宅から現地までの往復旅費は次のように計算する：

- 管理費用として、移動1日あたり100 スイスフラン
- 鉄道運賃：ファーストクラス
- 自家用車：1キロメートル当たり0.70 スイスフラン
- 航空運賃：エコノミー

650.6.3 インスペクター

アルペンコース小委員会委員長は、各国連盟を通じて申請者（クラブ）からのコース公認申請を受け取った後、インスペクターを任命する。インスペクターは視察の時期について直ちに申請者に連絡を取り、その連絡文書のコピーを当該国連盟に送付する。インスペクターは現地調査のため前に、公認申請書類の複写4部PDFファイルコピーを受け取る。調査後、インスペクターは視察報告書を作成し、必要な改善箇所をコースプラン上に赤でマークする。その他すべての書類をチェックした後、インスペクターは複写3部を全書類をマルチページ形式のPDFファイルにまとめてアルペンコース小委員会委員長に送付する。委員長は、それらを精査、承認する。承認書類（Homologation Documents）はFISの公式ウェブサイト~~に置く（掲載する）。~~次にコピーを送付する：

- 当該国連盟
- 申請者
- 1部はインスペクターの控えとして手元に残す

夏の視察に加え、冬季の異なる状況を考慮に入れて、冬に2回目の調査が必要かどうかの決定は、インスペクターに一任する。これは特に、安全規制とセーフティネットの配置について当てはまるものである。

650.6.4 FIS コース公認証の発行

視察報告書が肯定的なもので、それ以上コースに手を加える必要がない場合は、アルペンコース小委員会は申請者（クラブ）に公認証の原本を、当該国連盟とFIS にはそのコピーを送付する。公認証にはコース名、コースの種類、テクニカルデータが記載されている。公認証の登録番号は、公認コースの総数、公認証発行年、その年に登録されたコース数を示す。有効期限も示されている。公認証は、手数料が支払われたもののみ発行される。

650.6.6 FIS 公認証の有効期限

650.6.6.1 滑降及びスーパーG

滑降及びスーパーG のコース公認証は発行日承認年の11月1日より起算し、5 年間有効である。それ以後は、再公認を受けなければならない。

※南半球においては承認年の7月1日を起算日とする。

650.6.6.2 回転及び大回転

回転、大回転のコース公認証は発行日承認年の11月1日より起算し、10 年間有効である。それ以後は再公認を受けなければならない。

※南半球においては承認年の7月1日を起算日とする。

650.6.6.3 全種目

コース公認証は、自然／人工的变化や、規定または技術的条件の変更がない限り、有効である（650.6.6.1 条および650.6.6.2 条の期間内であれば）。

自然変化としては、

- 侵食、地滑り、または地面の植物の過成長が考えられる。
- 人工的变化としては、
- 建造物、リフトの架設が考えられる。
- シェルター、広場、駐車場、道路、通路等の架設が考えられる。
- 人工降雪設備、雪崩防止のフェンス、その他の障害物の設置。

2) ワールドカップ

3) FIS アルペン世界スキー選手権大会

4) 競技用品及び商標の仕様

5. レーシングスーツ

競技スーツ及びいかなる衣類（アンダーウェア等）は、可塑化や化学処理（気体、液体、固体）を施すことはできない。また空気透過率が30 リットル／m²／秒以上でなければならない。シーム（縫い目）は、スーツの様々な部位をつなぎ合わせる目的でなければならない。外側のタックやダーツは認められない。スーツは至るところで、外側から内側、また内側から外側の両方とも、等しい浸透性がなければならない。最小空気透過率を次の通り定める：

生地を伸ばさない状態で、10mm の水圧下において、30 リットル／m²／秒以上。選手は、全ての種目で、いわゆるプロテクターを用いて、全身を保護することができる。

- 回転、大回転、スーパーG のスーツの場合、肩、肩甲骨部分、腕、脚は、特別に保護できる。
- 滑降の場合、プロテクター（パット）を競技スーツと一体にすることはできない。
- すべての種目で、これらのプロテクターは、プロンプを押されたレーシングスーツの下に着なくてはならない。（例外：スーパーG及び大回転、そして回転では前腕（肘から手首までの部分）、回転における脛部分の保護に使用されるもの）

プロテクターは、肩、肩甲骨、胸部、腕、そして、脚の各部位を例外として、30 リ

ツールの空気透過率ルールを満たしてはならない。
解剖学的な体形を変えてはならない。表面の可塑性は認められない。
プロテクターは、30 リットルの空気透過率ルールを満たしてはならない。
但し、次の箇所を例外とする。
 - 滑降：肩、腕、膝、脛
 - スーパーG、大回転、回転：肩、肩甲骨、腕、脚
解剖学的な体形を変えてはならない。表面の可塑性は認められない。

5) FIS アルペンポイントルール

Over Quota 出場枠の超過

9.9 出場枠の超過 Over Quota

各加盟国スキー連盟は選手をその連盟が持つ最少出場枠のみで出走させる権利を有する。女性の競技は、第9.2条を適用する。

9.9.1 出場枠は、チームキャプテンミーティングにおいて、TD、レースセクレタリー、そして各チームキャプテンの代表らによってドローの前までに監督する。

9.9.2 もし、競技者がエントリー、または、実際に出走した結果としてその国の出場枠を超えた場合、その競技者は最終公式記録の計算、または、ペナルティ計算には考慮しない。もし、この違反が公式記録掲示前に発覚した場合、その競技者は『失格: DSQ(Over Quota)』と公式記録に記される。この様な規則違反が公式記録の掲示後に発覚した場合、公式記録は『FIS本部』にて、公式記録上にDSQ (出場枠超過: Over Quota) として掲示された競技者全員を除外して再計算される。この手続きには、FIS本部にて対処し、直近のクラシフィケーション小委員会にて承認される。

6) 特別クォータ

全日本スキー連盟より日本国スキー選手の特別申請は以下の通り：

※上記は男子、女子についてはポイントルール 9.2 条を考慮し申請していない。

日 程	会 場	開催国	主催地	種 別	カテゴリ	特別クォータ
26.11.-29.11.2009	Beidahu	CHN	CHN	GS, SL	FIS	JPN 90
05.12.-06.12.2009	Beidahu	CHN	CHN	SL	FIS	JPN 90
12.12.-13.12.2009	Beidahu	CHN	CHN	GS	FIS	JPN 90